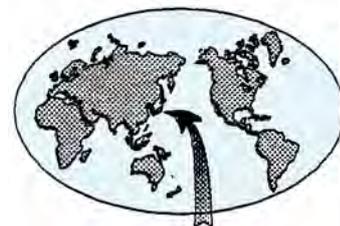


近畿地区会議ニュース



令和7年度 日本学術会議 近畿地区会議の活動について

近畿地区会議代表幹事

第2部会員 村山 美穂

(京都大学野生動物研究センター・教授)

日本学術会議近畿地区会議の令和7年度の活動についてお知らせします。物価の高騰は、研究費をも圧迫しています。また道路陥没をはじめとするインフラの老朽化に伴う危機を通じて、日常生活に潜む脆弱性をあらためて強く認識させられた年でした。

近畿地区会議は、地区運営協議会を毎年2月頃開催し、その運営方針を審議し決定しています。令和7年度は、学術講演会のテーマとして幾つか提案されたものの中から「社会の持続可能性と水問題」を開催しました。今回のテーマは、日本学術会議連携会員である伊藤公雄先生（京都大学名誉教授／大阪大学名誉教授）など多くの方々のご努力で実現したものです。

講演会の詳細についてはここでは申し上げますが、私も水に関する様々な研究分野のお話を、大変興味深くうかがいました。古来より水資源に恵まれた日本ならではの、水を巡る歴史、自然環境、日常生活から、地球規模での持続的な資源保全の問題まで、まさに知識の泉のように、様々な視点からの知見をご紹介いただきました。パネルディスカッションでも多くの質問があり、このテーマへの関心の高さがうかがわれました。シンポジウム後にも活発な意見交換ができ、ネットワークを築くことができました。学術会議のシンポジウムという場ならではの、異分野の研究者間や、研究者と聴衆との交流が、将来の新たな研究の発展にもつながっていくことを期待しています。

場所の手配などはいつものことながら、事務局の方々をはじめ多くの方々のお手を煩わせました。ありがとうございました。

講演会の内容については本号の学術講演会報告を見ていただければと思います。なお、多くの参加者から、興味深いとともに有益だったという賛辞をいただきましたことを付け加えさせていただきます。

近畿地区会議主催の学術講演会・シンポジウムは、地区独自の学術文化懇談会との密接な連携に基づいたものです。学術会議会員、連携会員とともにこの懇談会との協働体制に基づく活動によって、今後とも、一般市民の方々にも日本学術会議のあり方とその社会貢献の姿を広く知っていただく機会にしたいと願っています。令和8年度も、地区の皆様方にとって興味深いテーマを選び開催したいと思っています。

日本学術会議近畿地区会議学術講演会

「社会の持続可能性と水問題」

実施概要

日 時：令和7年9月13日（土） 13時00分～17時00分
主 催：日本学術会議近畿地区会議、京都大学
場 所：京都大学 芝蘭会館稲盛ホール
(オンライン・対面併用開催)

プログラム

開会の挨拶

三枝 信子 日本学術会議副会長、日本学術会議第三部会員、
国立研究開発法人国立環境研究所理事

時任 宣博 京都大学副学長、京都大学学際融合教育研究推進センター長

講演

基調講演「水の未来と水みんフラ」

沖 大幹 日本学術会議第三部部長、東京大学大学院工学系研究科教授

講演1 「水が育んだ『千年の都・京都』」

鈴木 康久 京都産業大学現代社会学部現代社会学科教授

講演2 「日本の水辺と『さとうみ（里湖・里海）』」

佐野 静代 同志社大学文学部文化史学科教授

講演3 「水道インフラの維持管理問題とフューチャー・デザイン
～自治体での実践事例を基に～」

原 圭史郎 大阪大学大学院工学研究科教授

講演4 「アジア・アフリカの水・衛生とサニテーションの意義」

原田 英典 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科准教授

パネル討論

パネリスト：上記講演者

コーディネーター：伊藤 公雄 日本学術会議連携会員
京都大学名誉教授／大阪大学名誉教授

全体総括

村山 美穂 日本学術会議第二部会員、京都大学野生動物研究センター教授

総合司会

矢野 桂司 日本学術会議第一部会員、立命館大学文学部教授

講演の概要

私たちの暮らす地球は、その表面積の71%が水でできており、まさに「水の惑星」ともいわれてきました。また、水は生命の源でもあることはよく知られた事実です。なかでも山地や森林に恵まれた日本は、世界でも稀な「美味しい飲料水」に満ちた社会であり、歴史的にも私たちの生活は、農耕や水運などを含め水に支えられてきたと言ってもいいでしょう。ところが、現在、水を巡ってさまざまな危機的状況が生まれつつあります。人口爆発は、私たちの生命を支える水の問題を顕在化させようとしています。また、水道の民営化問題は経済の発達した諸国を中心に様々な議論を呼び起こしつつあります。さらに、日本社会を振り返ってみれば、年初に埼玉県八潮市で発生した道路陥没の事件は、老朽化した上下水道の補修は待ったなしの課題であることを私たちに警告しています。水という身近でありながら見落とされがちな問題を、歴史的にまたグローバルな視点も踏まえて、改めて考えてみたいと思います。



開催報告

令和7年9月13日（土）に、日本学術会議近畿地区会議および京都大学は、地域社会の学術の振興に寄与することを目的として、日本学術会議近畿地区会議 学術講演会「社会の持続可能性と水問題」を開催しました（オンライン・対面併用開催）。

冒頭に、三枝信子 日本学術会議副会長（国立研究開発法人国立環境研究所理事）および時任宣博 副学長（京都大学学際融合教育研究推進センター長）の挨拶のあと、伊藤公雄 先生（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授／大阪大学名誉教授）より本講演会の説明が行われました。

続いて、上記「プログラム」に記載の5名の講演者による講演が行われました。講演後には、伊藤公雄先生の進行によるパネル討論が行われました。また、参加者からも多数の質問が寄せられ、活発な質疑応答が繰り返されました。

最後に、村山美穂 日本学術会議近畿地区会議代表幹事（京都大学野生動物研究センター教授）より全体総括があり、盛況のうちに終了しました。本講演会には約350名（うち、オンライン約225名）の参加があり、終了後のアンケートでは「命を維持するために不可欠な水について多方面からの専門的な研究のお話を聞いて大変勉強になった。」、「水は生活に密着したもので馴染みやすいテーマであった。全講演分かりやすい内容であり、来た甲斐があった。」などの感想が寄せられました。



開会挨拶（三枝副会長）



開会挨拶（時任京都大学副学長）



講演の様子
（沖教授 日本学術会議第三部部長、
東京大学教授）



パネル討論の様子



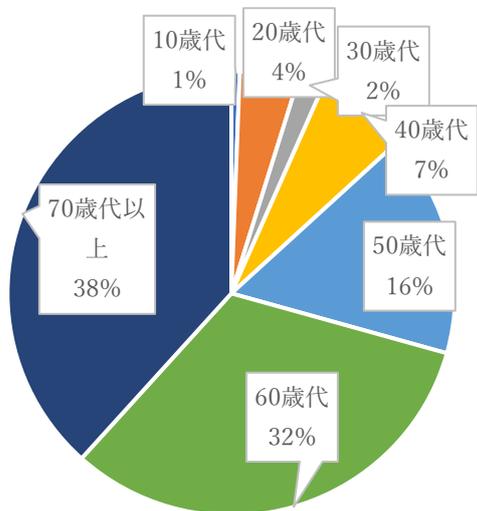
全体総括（村山教授）

日本学術会議近畿地区会議学術講演会

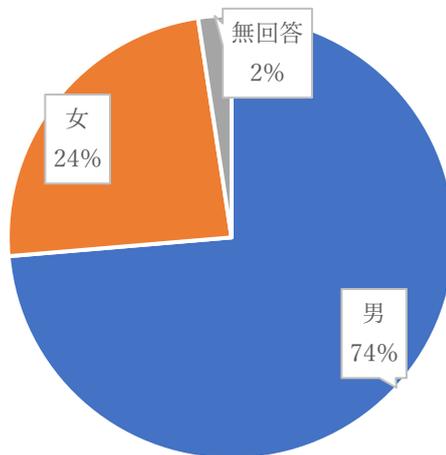
「社会の持続可能性と水問題」アンケート集計表

【講演会参加：350名 回答：167名】

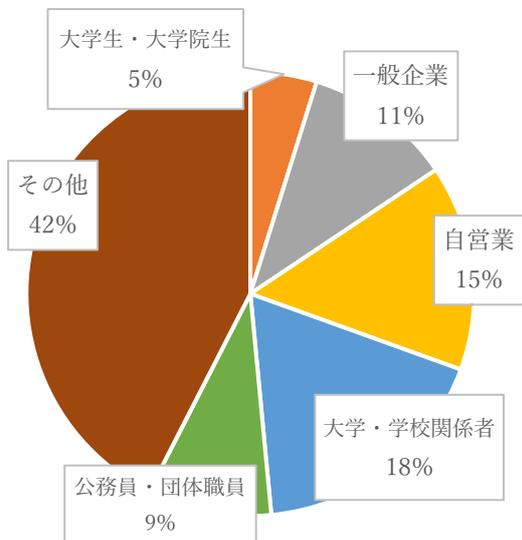
(1) 年齢



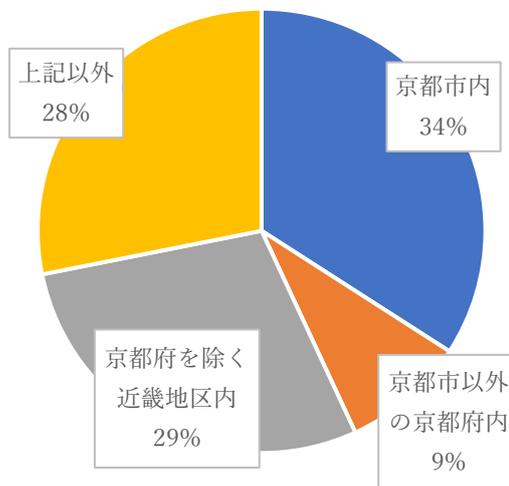
(2) 性別



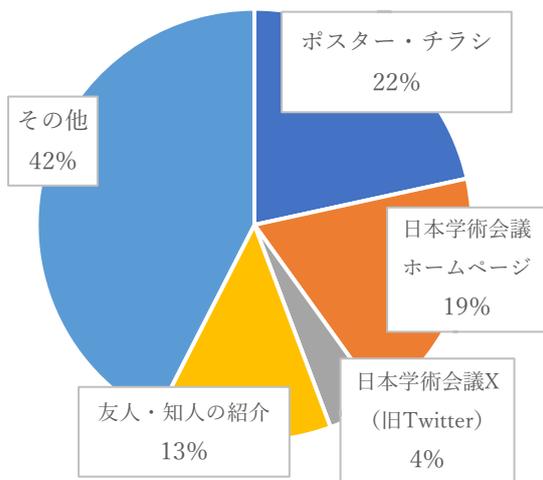
(3) 職業



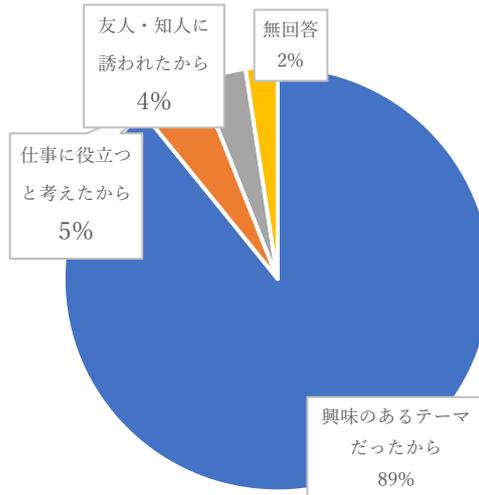
(4) 居住地



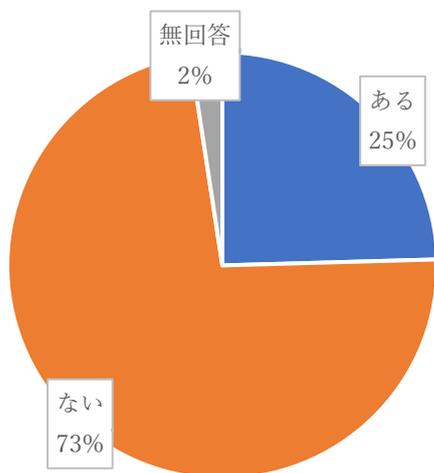
(5) 講演会を知った方法



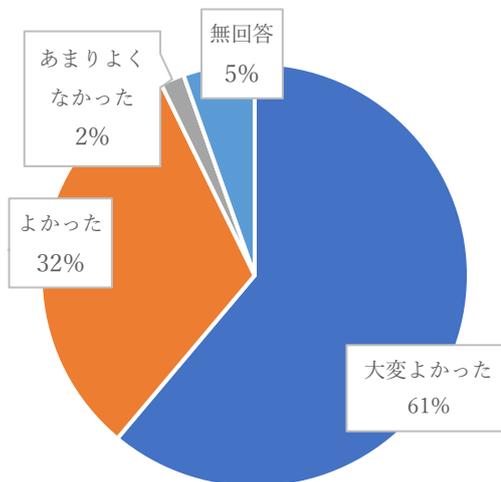
(6) 参加動機



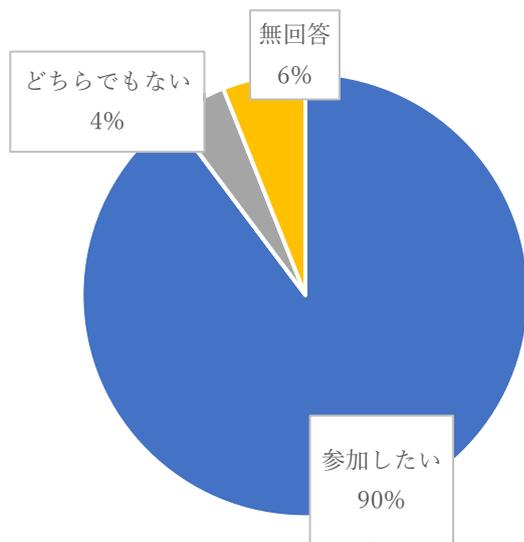
(7) 今までの参加有無



(8) 講演会の内容



(9) 今後参加したいか



*** 日本学術会議近畿地区会議とは ***

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年（1949年）1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。

職務は、以下の2つです。

1. 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
2. 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約87万人の科学者を内外に代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われています。

日本学術会議の役割は、主に（Ⅰ）政府に対する政策提言、（Ⅱ）国際的な活動、（Ⅲ）科学者間ネットワークの構築、（Ⅳ）科学の役割についての世論啓発です。

日本学術会議には、地域の科学者と意思疎通を図るとともに学術の振興に寄与することを目的として、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄の7つの地域に地区会議が置かれています。これらの地区会議は、地域の求める情報に即したテーマを設定した学術講演会の開催や科学者との懇談会、地区会議ニュースの発行などを行っています。

地区会議運営協議会は、当該地区に居住する会員又は勤務地を有する会員の中から各部ごとに選出された会員8名（令和8年1月時点）で構成されており、現在、近畿地区会議においては、第2部会員の村山美穂（京都大学野生動物研究センター教授）が代表幹事を務めています。

※「日本学術会議地区会議運営要綱」は以下のリンク先よりご覧ください（PDF形式）。

<https://www.scj.go.jp/ja/scj/kisoku/15.pdf>

近畿地区会議運営協議会

代表幹事	村山美穂	（第2部）
	上東貴志	（第1部）
	中村征樹	（第1部）
	矢野桂司	（第1部）
	北島薫	（第2部）
	大場みち子	（第3部）
	下田吉之	（第3部）
	小山田耕二	（連携会員）

近畿地区会議事務局

〒606-8501
 京都市左京区吉田本町
 京都大学 総合研究推進本部管理オフィス内
 TEL: 075-753-2041
 FAX: 075-753-5110
 メールアドレス
scj-kinki@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

日本学術会議ホームページ

<https://www.scj.go.jp/index.html>